

科目名	看護理論			担当教員：○鈴木啓子・永田美和子・佐久川政吉・横川裕美子・田場真由美・玉井なおみ・清水かおり・比嘉憲枝	
科目名(英語)	Nursing Theory				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	6	看護学科棟 17 (鈴木)	講義終了後

1. 授業の概要：
この科目では看護理論の批判的(クリティーク)分析や看護実践への有用性に焦点をあてる。看護学の知識体系の構築の知識を踏まえ、理論、実践、研究の関連について評価を行う。また看護実践のための科学的知識の開発に関する多様な方法により、より高度な看護実践に向けた知識の形成のために活用する。この内容についてはプレゼンテーションを中心に参加型の授業を展開する。

2. 到達目標：
(1) 看護理論の発展過程と歴史的背景を理解する。
(2) 専門職としての看護における理論の意義を理解する。
(3) 主な看護理論とその概念を説明し、分析し、臨床実践や教育・研究への適用について理解する。

3. 授業の計画

第1週	看護理論の概要(看護のメタパラダイム,理論とは,看護理論と実践・研究)	(鈴木啓子)
第2週	看護理論の種類と歴史的発展過程	(鈴木啓子)
第3週	看護理論の開発過程と理論の分析・評価	(鈴木啓子)
第4週	オレム看護理論(セルフケア看護理論)	(鈴木啓子)
第5週	レイニンガー看護理論(ケアリング理論)	(横川裕美子)
第6週	ワトソン看護理論(ケアリング理論)	(永田美和子)
第7週	ベナー看護理論(現象学的看護論)・ロイ看護理論(適応モデル)	(清水かおり)
第8週	ニューマン看護理論(システムズモデル)	(玉井なおみ)
第9週	ペンダー看護理論(ヘルスプロモーション)	(比嘉憲枝)
第10週	危機理論/悲嘆理論/ストレスコーピング理論	(玉井なおみ)
第11週	社会認知理論/保健信念モデル/アンドラゴジー	(玉井なおみ)
第12週	トランスセオレティカルモデル/プリシード・プロシードモデル	(田場真由美)
第13週	ストレングス理論	(佐久川政吉)
第14週	エンパワメント理論	(佐久川政吉)
第15週	理論をつかっの事例分析・まとめ	(鈴木啓子)

4. テキスト：
・ロレイン・オルゼウス・ウォーカー他(中木高夫・川崎修一訳)：看護における理論構築の方法,医学書院,2008.
・カレン・グランツ,他(曾根智史他訳)：健康行動と健康教育 理論,研究,実践,医学書院,2006.

参考文献：
・Karen Glanz, et al: Health Behavior and Health Education Theory, Research, and Practice, Forth Edition, Jossey Bass,2008.
・筒井真由美編著：看護理論家の業績と理論評価,医学書院,2015.
・ジョン・R・カットクリフ他(山田智恵里監訳)：看護の重要コンセプト 20,看護分野における概念文責の試み,エルゼビアジャパン,2008.
・アン・マリナー・トメノ他(都留伸子監訳)：看護理論家とその業績 第3版,医学書院,2004.
・フォーセット(大田喜久子,筒井真由美監訳)：看護理論の分析と評価 新訂版,医学書院,2008.
・野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論,メヂカルフレンド社,2010.
・シャーリー・M・ジューグラ他(竹尾恵子監訳)：理論に基づく看護実践,医学書院,2002.
・佐藤栄子編著：事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門第2版,日総研,2009.

この他各担当教員から紹介があるので参考にとすること

5. 準備学習：
各自テキストを自分なりに読み込み用語の理解、理論の概要についての理解を進めること。日常の看護実践および研究に向けて理論の分析、その活用について考えて授業に臨むこと。また、プレゼンテーションはクリティカルシンキングを行い、準備をする。

6. 成績評価の方法：
・授業に対する参画(看護論をクリティークする力、プレゼンテーション、討論への積極的参加) 50点
・課題レポート(看護論をとりあげ研究もしくは実践と結びつけ批判的に考察する) 50点
・合計 100点満点

7. 履修の条件：なし

8. その他：事前に提示された学習課題に取り組み授業に参加すること。事前に該当テキストおよび配布された資料を読みこみ授業に臨むこと。(教員の予定は変更になる可能性もあることをあらかじめ承知ください)

科目名	看護学研究方法論 I			担当教員：○玉井 なおみ 鈴木 啓子 木村 安貴	
科目名 (英語)	Introduction to Nursing Research I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	6	看研 5 (玉井なおみ) 看研 17 (鈴木 啓子) 3 研 2-12 (木村 安貴)	月曜日・金曜日 7 限

1. 授業の概要：

看護における研究の意義と特徴を理解し、文献検討、研究デザイン、研究方法、倫理的配慮、研究計画書、学术论文の書き方などの一連の研究プロセスを学習する。

2. 到達目標：

看護における研究の意義を理解し、看護実践の発展に貢献する研究方法論を学び、専門演習、特別研究を実施するための基盤を作ると共に、今後の研究活動に活用できることを目標とする。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	看護研究の意義と動向、特徴	(4/16 月)	(玉井なおみ)
第 2 週	研究課題の吟味について	(4/23 月)	(鈴木 啓子)
第 3 週	看護研究の基本的なプロセス	(5/2 水)	(玉井なおみ)
第 4 週	系統的文献検索の方法と実際	(5/7 月)	(木村 安貴)
第 5 週	研究課題と研究デザイン	(5/14 月)	(鈴木 啓子)
第 6 週	質的研究のプロセス	(5/21 月)	(玉井なおみ)
第 7 週	質的研究のプロセス	(5/28 月)	(玉井なおみ)
第 8 週	量的研究のプロセス	(6/4 月)	(木村 安貴)
第 9 週	量的研究と統計的解析	(6/11 月)	(木村 安貴)
第 10 週	文献クリティーク	(6/18 月)	(玉井なおみ/木村安貴)
第 11 週	文献クリティーク	(6/25 月)	(玉井なおみ/木村安貴)
第 12 週	研究倫理と研究者の責務	(7/2 月)	(鈴木 啓子)
第 13 週	研究計画書の作成に関して	(7/9 月)	(玉井なおみ)
第 14 週	研究計画書に関する討議	(7/23 月)	(玉井なおみ)
第 15 週	原著論文のまとめ方 学会などの発表に関して	(7/30 月)	(玉井なおみ)

4. テキスト：

- ・ Denise F. Polit , Cheryl Tatano Beck (2004)/近藤潤子 監訳 (2010) : 看護研究 原理と方法, 医学書院, 東京.
- ・ APA (2010)/江藤裕之他 訳(2011) : APA 論文作成マニュアル (第 2 版), 医学書院, 東京.

参考文献：適宜提示する

5. 準備学習：毎回、課題を提供するので、次回までに準備すること。

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 50 点 (評価視点：授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ)
- ・レポートの内容 50 点 (評価視点：テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ)
- ・合 計 100 点満点

7. 履修の条件：特になし

8. その他： 必修科目であり、修士論文作成のための基本になる科目のため、学生主体でプレゼンテーションを重ね、専門演習、特別研究に継続させてほしい。

科目名	看護学研究方法論Ⅱ			担当教員：○松下聖子 (非) 山浦晴男 木村安貴	
科目名(英語)	Introduction to Nursing Research				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	6	研 601 (松下聖子) (木村安貴)	火曜日・木曜日 7限

1. 授業の概要：

基本的な研究方法である質的研究と量的研究の特徴とその方法を学習する

2. 到達目標：

看護実践の発展に貢献する研究方法論を学び、専門演習、特別研究を実施するための基盤を作ると共に、今後の研究活動に活用できることを目標とする。

3. 授業の計画と内容

第1週	質的研究と量的研究について・コースガイダンス	(松下聖子)
第2週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第3週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第4週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第5週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第6週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第7週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第8週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第9週	量的研究法 【演習：SPSSによるデータ処理】	(木村安貴)
第10週	量的研究法 【演習：SPSSによるデータ処理】	(木村安貴)
第11週	量的研究法 【演習：SPSSによるデータ処理】	(木村安貴)
第12週	量的研究法 【演習：SPSSによるデータ処理】	(木村安貴)
第13週	量的研究法 【演習：SPSSによるデータ処理】	(木村安貴)
第14週	量的研究法 【演習：SPSSによるデータ処理】	(木村安貴)
第15週	ミックス法について	(松下聖子)

4. テキスト： 山浦晴男：質的統合法入門－考え方と手順－ 医学書院 2800円＋税

参考文献： 授業内で紹介する。

5. 準備学習：毎回、課題を提供するので、次回までに準備すること。

6. 成績評価の方法：

- ・質的研究の活動状況 50点
(評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ)
- ・量的研究の活動状況 50点
(評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ)
- ・合計 100点満点

7. 履修の条件：特になし

8. その他： 必修科目であり、修士論文作成のための基本になる科目のため、学生主体でプレゼンテーションを重ね、専門演習、特別研究に継続させてほしい。

科目名	沖縄のケアリング文化			担当教員：大城凌子・島田友子 宇座美代子（非常勤講師）	
科目名（英語）	Nursing in Okinawan Culture				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
1	1	前期	2～3	看研13（大城） 非常勤講師空室	水曜日6限 講義前後30分
<p>1. 授業の概要</p> <p>沖縄の地理的・歴史的背景を踏まえ、沖縄の文化として脈々と受け継がれてきたケアリングの在り様を探究し、沖縄の生活や文化に根ざしたケアリングの要素を、多角的、学際的側面から捉えることを試みる。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>1) 沖縄の人々の生活文化に根ざしたケアリングの現象を多角的に検討する 2) 沖縄の文化とケアリングに関する事例を分析し、沖縄のケアリング文化の特性を検討する 3) 沖縄のケアリング文化を活かした看護実践と今後の展望について自らの意見をまとめることが出来る。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週(5/10) コースガイダンス 沖縄の文化とケアリングに関する研究の動向 (大城凌子) 第2週(5/24) 沖縄の人々の世界観とケアリング (大城凌子) 第3週(5/31) 沖縄の文化に根ざした看護研究の展望 (宇座美代子) 第4週(6/7) 沖縄の文化に根ざした看護教育の展望 (宇座美代子) 第5週(6/14) 沖縄の年中行事（日常生活）とケアリングの現象 (大城凌子) 第6週(6/21) 沖縄の産育習俗とケアリング (島田友子) 第7週(7/5) 沖縄のケアリング文化のまとめ (大城凌子)</p> <p>4. テキスト・参考文献：</p> <p>5. 準備学習： 毎回、課題を課すので準備してくること。</p> <p>6. 成績評価の方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参画（討議 演習への積極的参加，予習，問題発見，プレゼンテーション） 50点 ・レポート（この科目を学んで，学生自身の研究や今後の看護実践にどう生かせるかをまとめる） 50点 <p style="text-align: right;">合 計 100点満点</p> <p>7. 履修の条件：特になし</p> <p>8. その他：</p>					

科目名	看護教育学			担当教員：清水 かおり、嘉納英明、(非)安酸史子																																														
科目名(英語)	Nursing Education																																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																													
2	1	前学期	2～6	看研 6 (清水)	月曜日・金曜日 6限																																													
<p>1. 授業の概要：</p> <p>教育学、および看護教育学の理論を学習し、看護基礎・卒後教育課程、あるいは継続教育に携わる看護職者が教育的機能を果たすために必要な基本的知識・技術を修得し、教育・実践領域において系統的な教育活動を展開できる能力を養う。</p> <p>2. 到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) わが国における看護基礎教育の歴史的変遷、教育制度、教育課程について理解する。 2) 今日の看護教育の現状を分析・考察し、問題点や課題について検討する。 3) 看護職への教育のあり方について、教育の基本的な考え方や構造について理解する。 4) 教育活動を効果的に展開するために必要な基本的な知識を、教育学の関連分野からも学ぶ。 5) 自身の教育観、指導観をふり返り、看護学生ならびに看護職に対する教育的な関わりや環境づくりを含む看護教育方法に関する知識や理論・技術を学習する。 6) 学習者の動機づけを高め、自己教育力を育成することのできる看護教育方法・評価について理解する。 <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>コースガイダンス、看護教育学とは何か</td> <td>(清水 かおり)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>専門職としての看護 専門職とは何か、実践の学問としての看護学</td> <td>(清水 かおり)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>看護教育制度 看護教育制度の歴史的変遷</td> <td>(清水 かおり)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>看護教育制度 看護教育制度の現状、准看護師問題</td> <td>(清水 かおり)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>教育学①</td> <td>(嘉納 英明)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>教育学②</td> <td>(嘉納 英明)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>看護学教育の基盤 アイデンティティ、クリティカルシンキング、リフレクション</td> <td>(清水 かおり)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>看護学教育の基盤 キャリアマネジメント</td> <td>(清水 かおり)</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>カリキュラム</td> <td>(清水 かおり)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>学習理論と学習方法</td> <td>(清水 かおり)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>学習方法：アクティブラーニング</td> <td>(松下 聖子)</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>学習方法：成人教育技法、シミュレーション教育 臨地実習における教育と学習</td> <td>(清水 かおり)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>教育的ケアリングモデル・経験型実習教育、看護学生が直面しやすい問題：臨地実習を通して</td> <td>非常勤講師</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>教育評価 教育評価とは何か、教育評価の考え方、看護学教育での評価の実際</td> <td>(清水 かおり) 非常勤講師</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>外国における看護学教育 米国・英国・中国における看護学教育</td> <td>(清水 かおり)</td> </tr> </table> <p>4. テキスト： グレグ美鈴、池西悦子編集 (2009)「看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う」第2版 南江堂。</p> <p>5. 準備学習：事前に該当テキストおよび配布された資料を読みこみ授業に臨むこと。事前に提示された学習課題に取り組み授業に参加すること。</p> <p>6. 成績評価の方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 50点 (評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ) ・レポートの内容 50点 (評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ) ・合計 100点満点 <p>7. 履修の条件：特になし</p>						第1回	コースガイダンス、看護教育学とは何か	(清水 かおり)	第2回	専門職としての看護 専門職とは何か、実践の学問としての看護学	(清水 かおり)	第3回	看護教育制度 看護教育制度の歴史的変遷	(清水 かおり)	第4回	看護教育制度 看護教育制度の現状、准看護師問題	(清水 かおり)	第5回	教育学①	(嘉納 英明)	第6回	教育学②	(嘉納 英明)	第7回	看護学教育の基盤 アイデンティティ、クリティカルシンキング、リフレクション	(清水 かおり)	第8回	看護学教育の基盤 キャリアマネジメント	(清水 かおり)	第9回	カリキュラム	(清水 かおり)	第10回	学習理論と学習方法	(清水 かおり)	第11回	学習方法：アクティブラーニング	(松下 聖子)	第12回	学習方法：成人教育技法、シミュレーション教育 臨地実習における教育と学習	(清水 かおり)	第13回	教育的ケアリングモデル・経験型実習教育、看護学生が直面しやすい問題：臨地実習を通して	非常勤講師	第14回	教育評価 教育評価とは何か、教育評価の考え方、看護学教育での評価の実際	(清水 かおり) 非常勤講師	第15回	外国における看護学教育 米国・英国・中国における看護学教育	(清水 かおり)
第1回	コースガイダンス、看護教育学とは何か	(清水 かおり)																																																
第2回	専門職としての看護 専門職とは何か、実践の学問としての看護学	(清水 かおり)																																																
第3回	看護教育制度 看護教育制度の歴史的変遷	(清水 かおり)																																																
第4回	看護教育制度 看護教育制度の現状、准看護師問題	(清水 かおり)																																																
第5回	教育学①	(嘉納 英明)																																																
第6回	教育学②	(嘉納 英明)																																																
第7回	看護学教育の基盤 アイデンティティ、クリティカルシンキング、リフレクション	(清水 かおり)																																																
第8回	看護学教育の基盤 キャリアマネジメント	(清水 かおり)																																																
第9回	カリキュラム	(清水 かおり)																																																
第10回	学習理論と学習方法	(清水 かおり)																																																
第11回	学習方法：アクティブラーニング	(松下 聖子)																																																
第12回	学習方法：成人教育技法、シミュレーション教育 臨地実習における教育と学習	(清水 かおり)																																																
第13回	教育的ケアリングモデル・経験型実習教育、看護学生が直面しやすい問題：臨地実習を通して	非常勤講師																																																
第14回	教育評価 教育評価とは何か、教育評価の考え方、看護学教育での評価の実際	(清水 かおり) 非常勤講師																																																
第15回	外国における看護学教育 米国・英国・中国における看護学教育	(清水 かおり)																																																

科目名	看護倫理学				
科目名(英語)	Nursing Ethics			担当教員：八代利香(小西清美)	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
1	1	後期	2～3	看研7	
<p>1. 授業の概要：</p> <p>看護における倫理的問題を解決できる能力を養うために、看護専門職に必要な看護倫理の基礎的知識と倫理的思考方法について事例を通して学ぶ。</p> <p>2. 到達目標：</p> <p>1) 看護倫理に関する重要な用語や概念を理解する。 2) 倫理的意思決定のプロセスを理解する。 3) 倫理的問題に関する感受性を高め、看護専門職としての責任と役割を理解する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 看護専門職の責任と倫理 第3週 倫理的ジレンマと対処 第4週 看護倫理のアプローチ 第5週 倫理的意思決定モデル 第6週 倫理的思考方法—事例演習(1) 第7週 倫理的思考方法—事例演習(2) 第8週 病院における倫理の実際</p> <p>4. テキスト：</p> <p>小西恵美子編：看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ、南江堂</p> <p>5. 準備学習：</p> <p>6. 成績評価の方法：</p> <p>1) レポート課題：70点 2) 受講態度：30点</p> <p>7. 履修の条件： 特になし</p> <p>8. その他：</p>					

科目番号	科目名	看護管理学		担当教員：横川裕美子 他	
看 276	科目名（英語）	Nursing Administration			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2～3	横川 研究棟 403 鈴木 看研 17 清水 看研 6	授業時に提示する

1. 授業の概要

保健看護サービスシステムの現状および看護職が直面している課題を把握し、現場の変革を推進するために必要な体系的知識・技術を有効に活用できる能力を養う。

2. 到達目標：

- 1) 看護管理の基本的な知識・技術を修得し、現状と課題について説明できる
- 2) 看護の現場の変革を推進するために、課題と解決策について意見を述べるができる

3. 授業の計画と内容

- 第1週 オリエンテーション、看護サービスの現状と看護管理の動向
- 第2週 医療チームにおけるリーダーシップ・メンバーシップ
- 第3週 医療コミュニケーションとマネジメント
- 第4週 医療安全と看護①〈看護職の健康と医療安全の関連性〉
- 第5週 医療安全と看護②〈医療安全と暴力〉
- 第6週 新人看護師のストレスに関する研究①（非常勤講師）
- 第7週 新人看護師のストレスに関する研究②（非常勤講師）
- 第8週 看護師のストレスコーピング①（非常勤講師）
- 第9週 看護師のストレスコーピング②（非常勤講師）
- 第10週 金融機関からみた病院経営（非常勤講師）
- 第11週 看護管理に関する研究
- 第12週 キャリア開発と看護管理
- 第13週 病院のトップマネジメントの実際（非常勤講師）
- 第14週 看護管理におけるコンピテンシーモデルの活用（非常勤講師）
- 第15週 今後の課題

4. テキスト：特に指定しない 参考文献：授業の内容によって随時提示する

5. 準備学習：

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 50点（授業への参加度，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切性）
- ・レポートの内容（テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切性，文献活用の適切性）
- ・合計 100点満点

7. 履修の条件：なし

8. その他：オムニバス方式で複数の講師が授業を担当する。また授業の状況により日程が変更になる可能性がある。非常勤講師は土曜日に開講となる場合がある。担当・日程の詳細は授業時に説明する。

科目名	コンサルテーション論			担当教員： 宇佐美 しおり・鈴木 啓子	
科目名(英語)	Consultation				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	看護学科事務室 (非常勤講師控室)	授業の前後 30 分ずつ
<p>1. 授業の概要</p> <p>保健医療チームの中でのコンサルテーションについて、する側と受ける側から理解できるように、理論と具体的な事例を通して方法論を学ぶ。また、コンサルテーションを受ける看護師としての自己研鑽のあり方を学ぶ。</p> <p>2. 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサルテーションの方法について理解できる。 ・看護実践にとってのコンサルテーションの意義について理解することができる。 <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 コンサルテーションの定義およびその歴史 (鈴木)</p> <p>第 2 週 コンサルテーションのタイプ (鈴木)</p> <p>第 3 週 コンサルテーションの実践モデル (宇佐美)</p> <p>第 4 週 コンサルテーションのプロセス (宇佐美)</p> <p>第 5 週 コンサルタントの関係 (宇佐美)</p> <p>第 6 週 ケース・コンサルテーションとコンサルティ中心のケース・コンサルテーション (宇佐美)</p> <p>第 7 週 管理に関するコンサルテーション (宇佐美)</p> <p>第 8 週 組織へのコンサルテーション (宇佐美)</p> <p>第 9 週 グループ・コンサルテーション (宇佐美)</p> <p>第 10 週 倫理的問題に対するコンサルテーション (宇佐美)</p> <p>第 11 週 コンサルテーションの評価 (宇佐美)</p> <p>第 12 週 コンサルテーションと他の治療との違い (宇佐美)</p> <p>第 13 週 演習 (1) (宇佐美)</p> <p>第 14 週 演習 (2) (宇佐美)</p> <p>第 15 週 まとめ (鈴木)</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>テキスト：</p> <p>① G.Lippitt & R.Lippitt:The Consulting Process in Action,Second Edition,Pheiffer,1986</p> <p>② 宇佐美しおり・野末聖香(2009)：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法，(社)日本看護協会出版会</p> <p>5. 準備学習</p> <p>レポート課題の提出</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>レポート (状況の正確な記述と分析力，課題設定・アセスメントの適切さと介入方法の適切さ) 20 点</p> <p>講義・演習への参画度 (ロールプレイなどでのコミットメント，プレゼンテーションの適切さ) 80 点</p> <p>合計 100 点で評価する</p> <p>7. 履修の条件</p> <p>ディスカッション形式の授業を展開するため，各自で問題事例をまとめ，レポートしておくこと。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし</p>					

科目名	ヘルスプロモーション論			担当教員：高瀬 幸一																																	
科目名(英語)	Health Promotion																																				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																
2	1	後期	2~3	研 203 (高瀬)	授業の前後 30 分ずつ 火 3、木 4																																
<p>1. 授業の概要：ヘルスプロモーションの起こりと歴史的背景，健康観についての歴史的変遷，健康政策への活用と評価の視点を講じ，ヘルスプロモーション理解した健康政策立案への基本的能力を習得する。さらに，運動生理学の観点から生活習慣病予防の具体的な知見や方法についても探究する。これらの基礎理論を用いて実際の現場におけるヘルスプロモーションを探究する。</p> <p>2. 到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ヘルスプロモーション・ウェルネス理念について理解することができる。 (2) 健康観の歴史的変遷について理解することができる。 (3) 諸外国の健康政策の理解と健康政策立案の基本的能力を習得する。 (4) 世界と日本の健康に関する現状を理解することができる。 (5) 健康増進・抗加齢に関する生理学的知識を習得することができる。 (6) 健康増進に効果的な運動の実施法について理解することができる。 <p>3. 授業の計画と内容</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">第 1 週</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr><td>第 2 週</td><td>健康観の変遷</td></tr> <tr><td>第 3 週</td><td>ヘルスプロモーションとは</td></tr> <tr><td>第 4 週</td><td>沖縄の長寿と健康問題</td></tr> <tr><td>第 5 週</td><td>平均寿命 1 位の長野県の健康増進についての取り組み</td></tr> <tr><td>第 6 週</td><td>ファストフードと健康問題</td></tr> <tr><td>第 7 週</td><td>健康教育とポピュレーションアプローチ</td></tr> <tr><td>第 8 週</td><td>ソーシャルキャピタルとは</td></tr> <tr><td>第 9 週</td><td>ロール、ツール、ルールの相互関係、コミュニケーションオーガニゼーション</td></tr> <tr><td>第 10 週</td><td>サクセスフルエイジング</td></tr> <tr><td>第 11 週</td><td>地域の健康支援の現状、スマートライフプロジェクトとは</td></tr> <tr><td>第 12 週</td><td>地域の健康支援 実際の事例 1</td></tr> <tr><td>第 13 週</td><td>地域の健康支援 実際の事例 2</td></tr> <tr><td>第 14 週</td><td>ワークショップ</td></tr> <tr><td>第 15 週</td><td>ワークショップ 2</td></tr> <tr><td>第 16 週</td><td>まとめ</td></tr> </table> <p>4. テキスト、参考文献</p> <p>参考テキスト：小熊 祐子 富田 眞紀子 今村 晴彦 (著)、サクセスフル・エイジング:予防医学・健康科学・コミュニティから考える QOL の向上</p> <p>毎回、資料・文献を配布する。</p> <p>5. 準備学習： 十分な予習と復習を行うこと。</p> <p>6. 成績評価の方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前の資料準備と授業への参画度 50 点 (評価視点：授業へのコミットメント，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切さ) ・終了レポートの内容 50 点 (評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切さ，文献活用の適切さ) <p>7. 履修の条件： 特になし</p> <p>8. その他：</p>						第 1 週	オリエンテーション	第 2 週	健康観の変遷	第 3 週	ヘルスプロモーションとは	第 4 週	沖縄の長寿と健康問題	第 5 週	平均寿命 1 位の長野県の健康増進についての取り組み	第 6 週	ファストフードと健康問題	第 7 週	健康教育とポピュレーションアプローチ	第 8 週	ソーシャルキャピタルとは	第 9 週	ロール、ツール、ルールの相互関係、コミュニケーションオーガニゼーション	第 10 週	サクセスフルエイジング	第 11 週	地域の健康支援の現状、スマートライフプロジェクトとは	第 12 週	地域の健康支援 実際の事例 1	第 13 週	地域の健康支援 実際の事例 2	第 14 週	ワークショップ	第 15 週	ワークショップ 2	第 16 週	まとめ
第 1 週	オリエンテーション																																				
第 2 週	健康観の変遷																																				
第 3 週	ヘルスプロモーションとは																																				
第 4 週	沖縄の長寿と健康問題																																				
第 5 週	平均寿命 1 位の長野県の健康増進についての取り組み																																				
第 6 週	ファストフードと健康問題																																				
第 7 週	健康教育とポピュレーションアプローチ																																				
第 8 週	ソーシャルキャピタルとは																																				
第 9 週	ロール、ツール、ルールの相互関係、コミュニケーションオーガニゼーション																																				
第 10 週	サクセスフルエイジング																																				
第 11 週	地域の健康支援の現状、スマートライフプロジェクトとは																																				
第 12 週	地域の健康支援 実際の事例 1																																				
第 13 週	地域の健康支援 実際の事例 2																																				
第 14 週	ワークショップ																																				
第 15 週	ワークショップ 2																																				
第 16 週	まとめ																																				

科目名	包括的健康アセスメント			担当教員：藤内美保 永田美和子 大城凌子	
科目名(英語)	Comprehensive Health Assessment			鈴木啓子	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2～3	研 610 (永田) 看研 1 (大城) 看研 17 (鈴木)	

1. 授業の概要：
看護モデルを基盤として身体・心理・社会的側面を包括的にとらえる高度なアセスメント能力を養う。身体面としてのフィジカル・アセスメント(Physical Assessment)強化を中心に、心理社会面として心理社会的アセスメント(MSE：Mental Status Examination)，看護診断を統合した講義によって習得する。

2. 到達目標：
① 身体面としてのフィジカル・アセスメントについて理解できる。
② 心理社会的アセスメントについて理解できる。
③ 病態生理学と看護診断を統合した包括的健康アセスメントについて理解できる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	オリエンテーション	ヘルスアセスメントの概念	(藤内美保)
第 2 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本①	(藤内美保)
第 3 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本②	(藤内美保)
第 4 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本③	(藤内美保)
第 5 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本④	(藤内美保)
第 6 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本⑤	(藤内美保)
第 7 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本⑥	(藤内美保)
第 8 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本⑦	(藤内美保)
第 9 週	心理社会的アセスメントの基本①		(鈴木啓子)
第 10 週	心理社会的アセスメントの基本②		(鈴木啓子)
第 11 週	シュミレーターを用いた演習		(大城、永田)
第 12 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント①		(永田、大城)
第 13 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント②		(永田、大城)
第 14 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント③		(永田、大城)
第 15 週	まとめ		(永田、大城)

3. テキスト：1. Lynn S Bickley 著：メディカル・サイエンス・インターナショナルのベイツ診察法
Bates Guide to Physical Examination and History taking 9th Edition
2. 藤崎郁 フィジカルアセスメント完全ガイド 学研

参考文献：
1. 野末聖香著 (2004)「リエゾン精神看護－患者ケアとナース支援のために」医歯薬出版株式会社
2. G.W.Start et.al (2005)Principles Practice of Psychiatric Nursing 8th edition ,MOSBY
(安保寛明・宮本有紀監訳「看護学名著シリーズ－精神看護－原理と実践」原著第8版)
3. 森山美知子編集「ファミリーナーシングプラクティス」医学書院
4. 古屋伸之 (2007) 診察と手技がみえる Vol 1 Medic Media
5. 花田妙子他 (1998) ヘルス・フィジカルアセスメント 上巻 日総研

5. 準備学習：
事前に掲示した資料に基づいた準備をして授業や演習に臨むこと。

6. 成績評価の方法：
・活動状況 50 点 (授業へのコミットメント、課題解決への努力、プレゼンテーションの適切さ)
レポートの内容 50 点 (臨地における実践的ヘルスアセスメントレポート)
・合計 100 点満点

7. 履修の条件： 特になし

8. その他：学外での臨地演習も含むため、履修可能な条件を整えること

科目名	健康栄養学			担当教員：奥本 正	
科目名(英語)	Health Nutrition				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	人 208	木 6 限

1. 授業の概要：

健康に生きるにはバランスの取れた食事、適切な身体活動、睡眠が必要である。この授業では、まず日本人の栄養摂取状況・食生活の現状、身体活動量等の現状と5大栄養素の基本的な働きを概説する。また健康に生きるために、何をどれだけ食べれば良いかだけでなく、いつ食べるのかという時間栄養学の概念を説明する。さらに、肥満や高血圧など身近なテーマを取り上げ、データの見方・考え方など根拠に基づいた栄養学の考え方を説明する。

2. 到達目標：

- ①日本人の栄養摂取，食生活，食習慣の問題点を指摘できる。
- ②現在のわが国の健康・栄養を知る。
- ③食品の分類とその表示について理解する。
- ④各栄養素の基本的な働きとそれを含む食品を知る。
- ⑤EBN の考え方を知る。
- ⑥資料を批判的に講読することができる。

3. 授業の計画と内容

- 第1週：日本人の栄養摂取量，食生活，食習慣の現状
- 第2週：食生活指針，食事バランスガイド，食事摂取基準，健康日本21，身体活動の指針2013
- 第3週：エネルギー消費量，身体活動量の測定
- 第4週：炭水化物の栄養
- 第5週：脂質の栄養
- 第6週：タンパク質の栄養
- 第7週：ビタミン・ミネラルの栄養
- 第8週：時間栄養学
- 第9週：サプリメント
- 第10週：あぶらと脂質異常症の関係
- 第11週：食塩と高血圧
- 第12週：肥満問題
- 第13週：糖質制限・ダイエット
- 第14週：疫学・栄養疫学
- 第15週：健康情報リテラシー

4. テキスト：

佐々木敏の栄養データはこう読む，佐々木敏，女子栄養大学出版社

参考文献：

佐々木敏のデータ栄養学のすすめ，佐々木敏，女子栄養大学出版社
わかりやすいEBNと健康疫学，佐々木敏，同文書院
脂質栄養学、菅野道廣、幸書房
栄養学雑誌，日本栄養食糧学会誌，**Journal of Nutritional Science and Vitaminology**
AmJ Clin Nutrition, J Clin Nutrition, J Nutrition 等栄養学関連の雑誌，疫学分野の雑誌

5. 準備学習：

後半の講義は，教科書のデータ読み取り，原著論文の講読を行い，レジюме作成を行い，授業に臨む。そのためには原書論文の検索法と文献の準備が必要となる。また，身体活動量の測定の課題を実施してから授業に臨む。

6. 成績評価の方法：

事前の資料準備と授業への参画度 50 点，レポート 2 回（40 点），課題 10 点

7. 履修の条件： 特になし

8. その他：

科目名	病態生理学			担当教員：砂川 昌範																																																								
科目名(英語)	Pathophysiology																																																											
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																							
2	1	後期	3	407	火・木 16:30-17:30																																																							
<p>1. 授業の概要： この授業では、臨床医学で頻回に遭遇する疾病を教材として、病態を生理学的アプローチから理解し、治療について学ぶ。</p> <p>2. 到達目標： 臨床看護で指導的役割を担える人材を育成することを目標にする。 1)自ら論理的に病態を理解・学習できる知識基盤を構築する。 2)病態に関する正しい情報を患者やその家族に説明し、最適な判断の手助けとなれる人材。 3)健康障害があっても、その影響を最小限にする際の専門的判断の知識基盤を構築する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>病態生理学の概要</td><td>砂川昌範</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>恒常性維持</td><td>砂川昌範</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>体液と電解質バランスの破綻1</td><td>砂川昌範</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>体液と電解質バランスの破綻2</td><td>砂川昌範</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>循環器系の疾患1</td><td>砂川昌範</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>循環器系の疾患2</td><td>砂川昌範</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>循環器系の疾患3</td><td>砂川昌範</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>循環器系の疾患4</td><td>砂川昌範</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>呼吸器系の疾患1</td><td>砂川昌範</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>呼吸器系の疾患2</td><td>砂川昌範</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>血液系の疾患1</td><td>非常勤講師 中村真理子 (琉球大学医学研究科)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>血液系の疾患2</td><td>非常勤講師 中村真理子 (琉球大学医学研究科)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>症例提示 (ケースレポート) 1</td><td>砂川昌範</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>症例提示 (ケースレポート) 2</td><td>砂川昌範</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>症例提示 (ケースレポート) 3</td><td>砂川昌範</td></tr> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人体機能生理学：杉晴夫，等(共著)，南江堂 (第4版)，2004年 ②標準生理学：本郷利憲，等(監修)，医学書院 (第6版)，2005年 ③からだの異常 病態生理学 I，II，III：北本清，等(共著)，日本看護協会出版会，2003年 ④疾病の成り立ちと回復の促進 (第3巻，第4巻) 疾病各論：下 正宗(編)，医学書院，2006年 ⑤Physiology and Pathophysiology of the heart (Third edition)，Nicholas Sperelakis，Kluwer Academic Publishers (KAP)，1995 ⑥Textbook of Medical Physiology，Guyton & Hall，2006 ⑦Clinical 生体機能学—生理学から症状がわかる—：當瀬規嗣，南山堂，2005 ⑧Pathophysiology: The biologic basis for disease in adults and children. Kathryn L McCance 8 Sue E. Huether，Mosby 1997 <p>5. 準備学習：講義タイトルに関連する論文を1編読んできてレポートすること。</p> <p>6. 成績評価の方法：授業への討議の参加，レポート，試験により総合的に評価する。</p> <table border="0"> <tr><td>・事前の資料準備と授業への参画度</td><td>20点</td></tr> <tr><td>・レポート内容</td><td>20点</td></tr> <tr><td>・ケースレポート発表</td><td>20点</td></tr> <tr><td>・試験</td><td>40点</td></tr> <tr><td>・合計</td><td>100点満点</td></tr> </table> <p>7. 履修の条件：3分の2以上の講義出席をもって期末試験を受験できるものとする。</p> <p>8. その他</p>						第1回	病態生理学の概要	砂川昌範	第2回	恒常性維持	砂川昌範	第3回	体液と電解質バランスの破綻1	砂川昌範	第4回	体液と電解質バランスの破綻2	砂川昌範	第5回	循環器系の疾患1	砂川昌範	第6回	循環器系の疾患2	砂川昌範	第7回	循環器系の疾患3	砂川昌範	第8回	循環器系の疾患4	砂川昌範	第9回	呼吸器系の疾患1	砂川昌範	第10回	呼吸器系の疾患2	砂川昌範	第11回	血液系の疾患1	非常勤講師 中村真理子 (琉球大学医学研究科)	第12回	血液系の疾患2	非常勤講師 中村真理子 (琉球大学医学研究科)	第13回	症例提示 (ケースレポート) 1	砂川昌範	第14回	症例提示 (ケースレポート) 2	砂川昌範	第15回	症例提示 (ケースレポート) 3	砂川昌範	・事前の資料準備と授業への参画度	20点	・レポート内容	20点	・ケースレポート発表	20点	・試験	40点	・合計	100点満点
第1回	病態生理学の概要	砂川昌範																																																										
第2回	恒常性維持	砂川昌範																																																										
第3回	体液と電解質バランスの破綻1	砂川昌範																																																										
第4回	体液と電解質バランスの破綻2	砂川昌範																																																										
第5回	循環器系の疾患1	砂川昌範																																																										
第6回	循環器系の疾患2	砂川昌範																																																										
第7回	循環器系の疾患3	砂川昌範																																																										
第8回	循環器系の疾患4	砂川昌範																																																										
第9回	呼吸器系の疾患1	砂川昌範																																																										
第10回	呼吸器系の疾患2	砂川昌範																																																										
第11回	血液系の疾患1	非常勤講師 中村真理子 (琉球大学医学研究科)																																																										
第12回	血液系の疾患2	非常勤講師 中村真理子 (琉球大学医学研究科)																																																										
第13回	症例提示 (ケースレポート) 1	砂川昌範																																																										
第14回	症例提示 (ケースレポート) 2	砂川昌範																																																										
第15回	症例提示 (ケースレポート) 3	砂川昌範																																																										
・事前の資料準備と授業への参画度	20点																																																											
・レポート内容	20点																																																											
・ケースレポート発表	20点																																																											
・試験	40点																																																											
・合計	100点満点																																																											

科目名 (英語)	科目名：英語講読 Reading in English			担当教員：渡慶次 正則 tokeshizemi@hotmail.co.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1	後	5 1 2	月曜日 7時限
<p>1. 授業の概要</p> <p>英文で書かれた看護の専門誌・論文を購読する力を養うことを目的とする。テキストを中心に、他に一般の新聞や雑誌を読みながら、文法や語句の解説も加えて看護分野に関する基礎読解力を高めたいので、専門誌の看護の英語論文を購読する。</p> <p>2. 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞、雑誌を辞書なしで読み、意味の概要を把握する。 ・看護の専門雑誌を辞書などを利用して読み、正確な意味を把握することができる。 <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週(4/11) オリエンテーション、登録、</p> <p>第 2 週(4/18) Unit 1 Tightening Japan's Tobacco Controls</p> <p>第 3 週(4/25) Unit 2 A Dangerous Flu Season</p> <p>第 4 週(5/9) Unit 3 Coping with Anxiety</p> <p>第 5 週(5/16) Unit 4 Autism</p> <p>第 6 週(5/23) Unit 5 How to mend a broken heart</p> <p>第 7 週(5/30) Unit 6 Herbal Healing</p> <p>第 8 週(6/6) Unit 7 A lawful way to die</p> <p>第 9 週(6/13) Unit 8 Changes in sleep pattern</p> <p>第 10 週(6/20) Unit 9 Confusion</p> <p>第 11 週(6/27) Unit 10 A battered-child syndrome</p> <p>第 12 週(7/4) Unit 11 Communicating with infants</p> <p>第 13 週(7/11) Unit 12 The unique function of nursing</p> <p>第 14 週(7/24) Unit 13 How to read abstracts #1</p> <p>第 15 週(8/8) Unit 14 How to read abstracts #2</p> <p>第 16 週(8/?) Unit 15 A full research article</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>『看護英語読解 15 のポイント』 園城寺康子ほか、メディカルレビュー社(2,000 円+税)</p> <p>5. 評価</p> <p>授業への積極的参加 30点</p> <p>事前の購読 50点</p> <p>資料の購読 20点</p> <p>合計 100点</p> <p>6. 履修の条件</p> <p>教科書は英語版を用いるため、英語能力が高い学生が望ましい。</p> <p>授業も主に英語で説明するが多い。</p> <p>7. その他</p> <p>事前に、テキストや課題について学習をして授業に臨む。</p>				